

2017年度 4月入学式 総長式辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。

早稲田大学を代表して、新入生の皆さん、および、ご家族・ご関係の皆様に対し、心よりお祝いと歓迎のご挨拶を申し上げます。

早稲田大学全体の本年4月新入生は、学部9,098名、大学院2,927名の合計12,027名に上ります。このほか、昨年9月に998名（学部383名、大学院615名）の方が入学していますので、学部・大学院を通じた4月1日現在の1年生の総数は、13,023名になります。

このうち、海外からの留学生は1,648名で、全体の約13%を占めています。数多くの優秀な人材が世界各地から集まってくださったことを、大変嬉しく思います。

この場にいらっしゃる新入生の皆さんは、さまざまな思いを胸にこの入学式に臨んでいることと思いますが、達成感に浸っている方も、入学試験は長い人生の中のある瞬間の限られた能力に対する評価に過ぎませんので、本日を機に、新たな目標に向かって、新しいスタートを切ってください。

本学は、いまから135年前、明治15年（1882年）に、この早稲田の地に創設されました。

当時の日本は、欧米の近代的な社会制度と科学技術を輸入して、一日も早く欧米に追いつこうとしていました。そのために、当時の官立大学は、官僚と技術者を効率的に養成するために、欧米の制度をそのまま学びとることが行われていました。

これに対し、本学の創立者である大隈重信や小野梓らは、これとは異なる理念をもって本学を創設いたしました。

すなわち、真の近代国家を作り上げるためには、単に欧米の制度を直輸入して、一握りの官僚が国を支配するのでは不十分であり、自立した精神と豊かな教養、一国の利益よりも人類全体の利益のために力を尽くそうとする人格を備えた市民が国を支えることが重要であり、そのためには、わが国の実情を踏まえた学問を確立し、個性を尊重した高等教育を普及させることが必要であると考えたのです。

こうした本学創設者たちの理念は、「学問の独立」、「学問の活用」、「模範国民の造就」として、本学教旨に謳われています。

こうした理念の下に設立された本学には、全国各地から、また世界各地か

ら、個性豊かで進取の精神にあふれた多様な若者が集まり、政治・経済・科学技術・ジャーナリズム・文学・芸能・スポーツなど極めて幅広い分野に多彩な人材を送り出して参りました。最近公表された「QS Graduate Employability Ranking」という卒業生の活躍ぶりを評価する世界大学ランキングの 2017 年版では、本学は、2 年連続で国内第 1 位、世界でも 26 位という高い評価を受けています。

新たに本学の一員となられた皆さんにも、是非とも、この本学建学の理念に込められた創設者たちの想いを胸にとどめ、多様な才能を大いに伸ばして、世界各地で、また、ありとあらゆる分野で、先輩たちに勝るとも劣らぬ活躍をしてほしいと期待しています。

ところで、今日の社会は、グローバル化の急速な進展により、市場経済を飛躍的に発展させる一方で、経済格差の拡大、環境破壊などが深刻さを増し、そのことがナショナリズムの台頭や国際テロの頻発などの事象を引き起こしてもいます。

また、科学技術の進展、とりわけ AI やロボットの進化は著しく、今後 10 ～ 20 年の間に、現在存在している職業の半分は自動化されてしまうことになるだろうという予測もなされています。

このように急速かつ大規模に産業構造・社会構造が変化し、さまざまな課題を生じさせ続ける社会においては、本学が創立された時代におけると同様に、単に既存の知識を覚え込むだけでは不足、未知の課題に遭遇しても、果敢にこれに挑戦し、問題の本質を見抜き、解決策を見出して、それを実行していくための、「知恵」と「志」と「実行力」そして総合的な「人間力」を身につけた人材を育成することが強く求められています。

また、氾濫する各種の情報を鵜呑みにせず、冷静かつ客観的に信頼に足る情報を選別するための専門的知見と批判精神を涵養することも、ますます重要になっています。

本学では、こうした要請に応えるべく、2012 年に策定した中長期計画「Waseda Vision 150」に基づいて、大胆な改革を推し進めています。

教育面では、第 1 に、基礎的な知識と技能を身につけるため、グローバルエデュケーションセンターを中心に、学部を越えて、少人数クラスでの実践的な外国語能力、日本語および英語での学術的文章作成力、数学的論理的思考力と情報・統計の理解力を涵養するための基盤教育を実施するとともに

に、幅広い教養教育を行っています。

第2には、学生が能動的に学び、主体的に考える力を涵養するため、少人数クラスでの議論中心の課題発見・解決型の授業への転換を進めおり、全学部に設置されているクラスの約半分以上が20人以下、8割以上が50人以下の少人数クラスとなっています。さらに、インターンシップ、フィールドワークなどの体験型学習や海外での学びの機会を拡充するとともに、学生同士が主体的にグループワークを行うための学習スペースやICT環境の整備を積極的に進めています。

第3に、価値観や文化的背景の異なる多様な人びととの相互理解を深め、彼らの信頼を得て、その実行をリードしていく人間力を伸ばすために、個性豊かで多様な人材が集い互いに切磋琢磨する中で人間力を涵養するという本学の良き伝統をさらに拡充するための改革を進めています。

すなわち、個性豊かで多様な人材が集うよう入学者選抜制度の改革を行うとともに、既に年間35億円規模に達している本学独自の給付型奨学金のさらなる拡充を図っています。また本学は、1884年に最初の留学生を受け入れて以来、積極的に留学生を受入れてまいりましたが、それをさらに加速し、現在では、わが国で最も多い5400人以上の外国人学生が在籍しています。しかも、その約半数が学部生ですから、皆さんも、教室や異文化交流センター（ICC）、さらにはサークル活動や国際学生寮での生活などを通じて積極的に異文化交流実践してください。

また、ボランティア・インターンシップなどの体験型学習には年間2万人以上が参加し、大学の用意したさまざまな留学プログラムを活用することで毎年4千人以上の学生が海外での学びを体験しています。

体験型学習や異文化交流を通じて、学生たちは、自分の育った環境とは異なる社会の存在や全く異なる価値観を持った人びとなどに触れて、多くの驚きや感動を覚え、それが教室での座学のモチベーションを高めたり、キャリア形成に具体的なイメージを与えたりするなど数多くのメリットが指摘されています。本学では、体験を文章化することで、驚きや感動を論理化・体系化し、その自己検証を試みることにより、課題発見力や主体的に考える力、表現力などを養うことができる点に着目して、「体験の言語化」という授業にも力を入れています。

同様に、本学は、学生の自主的活動の活発さには定評がありますので、サ

一クル活動等に積極的に参加して、存分に個性を伸ばしてほしいと考えています。

研究面においても、独創的な研究の発展を目指して、重点領域を中心に組織的な研究体制を強化するとともに、本学の誇る強固な海外研究機関とのネットワークを活用することで「研究の国際化」も推し進めています。つい先日、QS社が発表した、研究分野別ランキング2017年版においても、9分野が世界100位以内にランクされ、国内トップクラスの研究力を有する大学としての地位を確立しています。

大学院ではもちろん、学部においても、学生・院生には、「教えてもらう」のではなく、「自ら主体的に学ぶ」ことが求められていますし、大学受験等とは異なり、唯一無二の正解を覚え込むのではなく、正解の定まっていない問題を多面的に考察することが主要な課題とされることになります。

新入生の皆さんには、これまでに蓄積してきた豊富な知識を前提としながら、先程来紹介してきた本学の提供する優れた教育環境を、また、個性豊かで多様な教員・学生との切磋琢磨の機会を、主体的かつ積極的に活用することで、これからの時代を牽引し、不透明な時代を逞しく生き抜いていくために必要とされる基礎的なスキルとマインド、さらには総合的な人間力を涵養してくださることを切に期待しています。

新入生の皆さんが、自らを成長させるさまざまな学問との「出会い」、人との「出会い」を見つけ、新たな目標を定めて自己研鑽に励み、実り多き学生生活・研究生生活を送られることを祈念して、私からのお祝いと歓迎のご挨拶とさせていただきます。

皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。